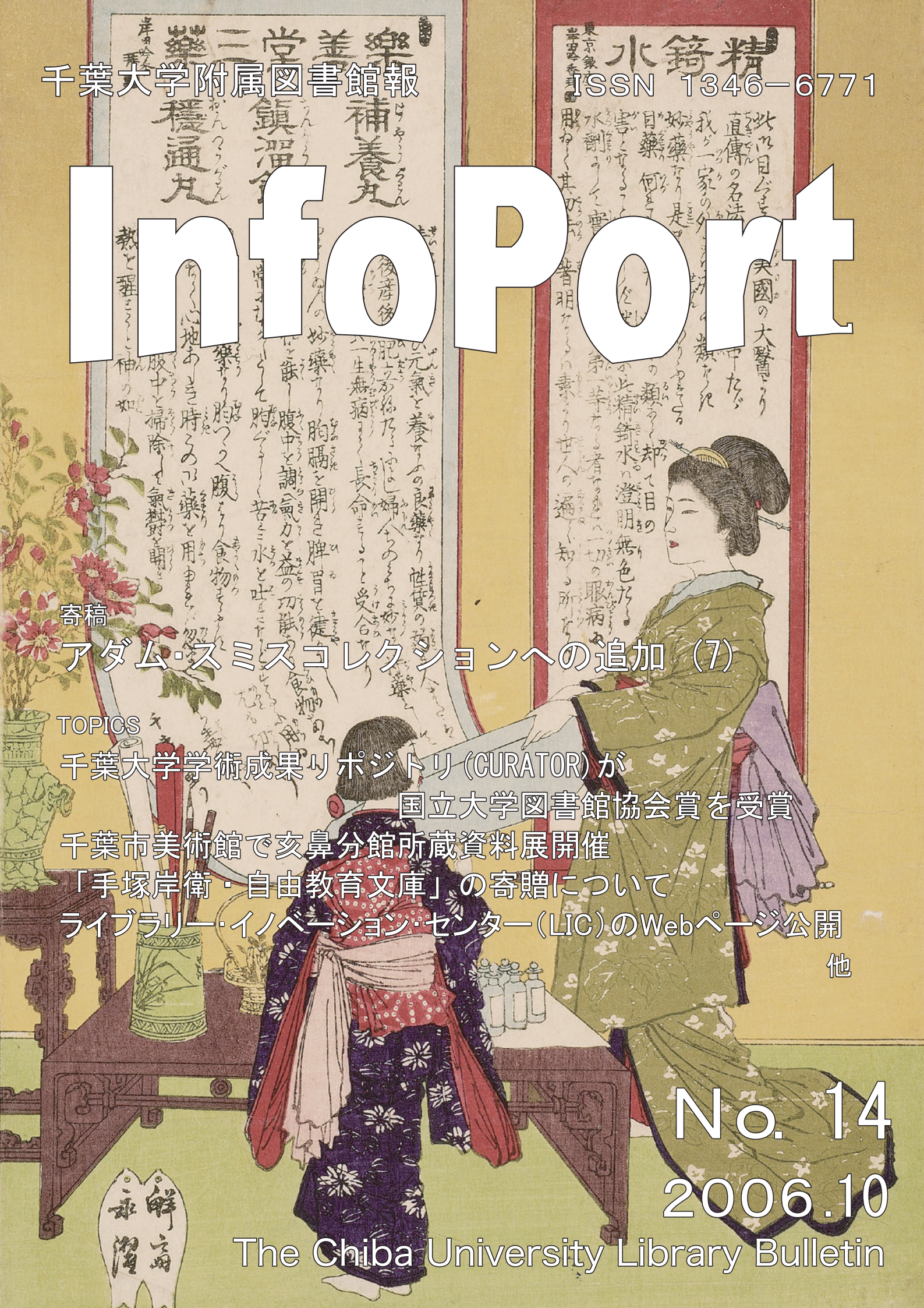


InfoPort



寄稿

アダム・スミスコレクションへの追加 (7)

TOPICS

千葉大学学術成果リポジトリ (CURATOR) が

国立大学図書館協会賞を受賞

千葉市美術館で亥鼻分館所蔵資料展開催

「手塚岸衛・自由教育文庫」の寄贈について

ライブラリー・イノベーション・センター (LIC) のWebページ公開

他

No. 14

2006.10

The Chiba University Library Bulletin

Library Topics

「手塚岸衛・自由教育文庫」の寄贈について

教育改造運動の指導者として知られる故手塚岸衛氏の蔵書等資料が、ご遺族から(彼の研究家中野光氏を通じ)教育学部を経て、この度附属図書館に寄贈されました。

本学教育学部の前身である千葉県師範学校附属小学校主事であった手塚岸衛氏は、自由教育を実践し、後に彼の思想は『窓ぎわのトットちゃん』で有名なトモエ学園に引き継がれました。目録は附属図書館Webページで見ることができます。(図書館トップページ>コレクション>文庫)本館コレクション室に配架。

この文庫に係わる特別展を企画しています。詳細は図書館Webページに掲載します。

ライブラリー・イノベーション・センター(LIC)のWebページ公開

千葉大学附属図書館研究開発室「ライブラリー・イノベーション・センター」のWebページが完成し、このたび下記URLにて公開されました。ライブラリー・イノベーション・センターについての情報はこちらをご覧ください。

<http://www.LL.chiba-u.ac.jp/~libinoc/>

携帯版OPACサービス開始

附属図書館の蔵書検索が携帯電話からもできるようになりました。「利用状況参照」でご自分が現在借りている図書や予約の状況を確認できます(ID・パスワードはパソコン用の「利用問い合わせ」と同じです)。

<http://opac.LL.chiba-u.jp/mobileopac/>

MyLibrary、今秋、サービス開始

MyLibraryとは千葉大学の学生・教員どなたでもお使いいただけるWeb上の図書館です。学習・研究に役立つウェブサイトをあらかじめ用意してありますので、専門に合わせて表示をカスタマイズしてご利用ください。また借用中の図書の情報や文献複写の到着を確認することもできます。

詳細は図書館Webページに掲載します。

附属図書館からの連絡が自動配信メールに

予約図書・貸出図書の延滞督促の連絡について、図書館システムからのメールの自動配信を開始しました。早急な情報提供サービスのために、メールアドレスを変更された方、未登録の方はカウンターに申し出てください。

表紙: 亥鼻分館所蔵資料
鮮斎永濯画「楽善堂三楽 補養丸、鎮溜丸、穩通丸、精錡水」(部分)



CURATOR 最近のトピックス

CURATOR

千葉大学学術成果リポジトリ(CURATOR) <http://mitizane.LL.chiba-u.jp/curator/>

機関リポジトリワークショップ開催



ディスカッションの様子

5月22日、機関リポジトリワークショップ「研究成果 Schauケースとしての機関リポジトリ: オランダ“Cream of Science”を中心に」が、ライブラリー・イノベーション・センター、国立情報学研究所、REFORM「電子環境下における大学図書館機能の再検討」の共催により、

千葉大学社会文化科学系総合研究棟マルチメディア会議室で開催されました。講演者としてオランダ DARE (Digital Academic Repositories) Cream of Science プロジェクトディレクターの Martin Feijen 氏をお迎えしました。

会場には学内外より約50名の方が集まり、参加者のみなさんが活発に意見を交わす有意義なワークショップとなりました。

講演では Feijen 氏より、オランダの主要な研究者の研究成果を公開している“Cream of Science”プロジェクトについて、成功に至るまでの経緯や種々の方策とこれからの展望が語られました。

その後行われた海外事例報告では、金沢大学附属図書館 木下聡課長、国立歴史民俗博物館 野田英明氏、北海道大学附属図書館 鈴木雅子氏、千葉大学附属図書館 金山亮子がそれぞれオーストラリア、ポルトガル、カナダ、アメリカにおける機関リポジトリの調査報告を発表しました。

ディスカッションでは、機関リポジトリを成功させるために解決すべきいくつかの問題について Feijen 氏に多くの質問が投げかけられました。なかなか進まない登録(セルフアーカイビング)については、「国民性にもよる多くの研究者が登録するためには金銭的なインセンティブよりも研究者自身の貢献する気持ちが高まること長い目で見れば効果的といえる」という Feijen 氏の意見がありました。著作権許諾の問題についてもその解決のための方策などが議論されました。また、Feijen 氏のオランダの事例も含め、各報告の中でもリポジトリ振興のためにはプロモーション(広報)が重要であるとの意見があったため、プロモーションにおける図書館員の役割、とりわけ特定の分野についてサポートするサブジェクト(リエゾン)ライブラリアンの有効性と研究コミュニティ形成の重要性についても議論されました。

発表資料のダウンロードは LIC Web ページ(<http://www.LL.chiba-u.ac.jp/~libinoc/>)、「活動報告」より。

- CURATOR - CURATOR - CURATOR - CURATOR - CURATOR - CURATOR - CURATOR - CURATOR -

平成18年度 国立大学図書館協会賞を受賞

附属図書館が平成14年度から取り組んできた機関リポジトリが、「千葉大学学術成果リポジトリ(CURATOR)の構築・運用・公開における活動」として国立大学図書館協会賞^注を受賞し、第53回国立大学図書館協会総会(6月29日一橋記念講堂で開催)において表彰されました。

受賞理由としては、千葉大学の機関リポジトリ構築が国内の他の機関に先駆けた取り組みというだけでなく、大学の事業として実施する決定を踏まえたものであり、機関リポジトリ構築が図書館の新しい役割であることを、広く図書館界ならびに大学関係者に知らしめた点が高く評価されました。

CURATORの構築・運用・公開につきましては、本誌(No.5、7、12)でも取り上げ学内の皆様にご協力をお願いし、その都度多大なるご支援を頂いてきたところです。この受賞を機にこれまでのご支援に感謝申し上げますとともに、引き続き CURATOR のコンテンツ構築と、研究活動を支援するシステムの開発を推進してまいります。



注:国立大学図書館協会賞は、故岸本英夫博士(元東京大学附属図書館長)のご遺族と全国の大学図書館関係者から寄せられた寄付金等を基に設置された賞であり、昭和41年より、図書館活動および図書館・情報学研究に顕著な業績をあげた者(個人およびグループ)に対して表彰状およびメダルを授与するものです。

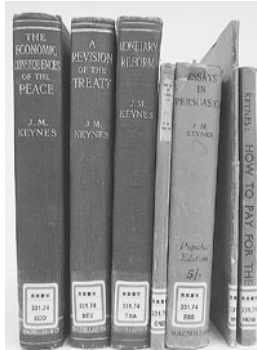


授賞式



アダム・スミスコレクションへの追加 (7)

人文社会科学研究科教授 野澤敏治



J.M. Keynes

- 1) The Economic Consequence of the Peace, Macmillan and Co., London, 1919.
- 2) A Revision of the Treaty, Macmillan and Co., London, 1922.
- 3) A Tract on Monetary Reform, Macmillan and Co., London, 1923.
- 4) The End of Laissez-faire, Leonard and Virginia Woolf., London, 1926.
(2nd impression)
- 5) Essays in Persuasion, Macmillan and Co., London, 1933.
- 6) The Means to Prosperity, Macmillan and Co., London, 1933.
- 7) How to Pay for the War, Macmillan and Co., London, 1940.

ヨーロッパの資本主義の構造は19世紀後半から20世紀にかけて、特に第1次世界大戦を契機にして、変わる。それは私企業間の自由競争から大企業による寡占価格の経済へ、金本位制から管理通貨の経済へ、自由貿易帝国主義から新帝国主義へと変わる。そのダイナミックに変化した現実を認め、その経験に合う新たな経済学が必要となる。

A. バリーとG. C. ミーンズが出てきて、株式会社の発展によって市場が寡占化し、会社の資本所有と経営とが分離していることを認める。企業は価格競争を避け、ある程度価格を管理するようになった。経済活動はかつてのように勤勉と節約による資本形成や物的な所有権の安全を基礎とするのではなく、株式の発行と銀行からの借入れの債権・債務関係を基礎とするものに移っていくのである。そして企業は実際には株主だけのものではなく、経営者・労働者・関係会社・消費者の利益を考えるものになっている、あるいはそうでなければならぬものになっていく。また、国際経済面では金本位制が崩れていった。それまでは金が価値の最終的な尺度であり、各国の物価は金の国際移動によって自動的に調節されていたのであるが(その裏で恐慌とブームの景気循環があった)、今や金は主要国の中央銀行によって管理された通貨となる。それは世界の工場と金融センターがイギリスからアメリカに移ったことでもあった。J. A. ホブソンはそれまでの自由貿易体制は崩れ、欧米の列強が(日本を含めて)領土拡張の新帝国主義の段階に入ったことを認め、その背後に金融階級の利害があることを解明する。

新たな現実を踏まえた新たな経済学が必要となる。それなのに政治家も国民も古い自由放任主義の考えに囚われていた。バリー＝ミーンズとは別に、ケインズがそれを打破する。

ケインズの経済政策はその後の1970年代に試練を受け、その経済学も再検討の対象となる。だが、その学問的方法や世界観は今日なお、生きている。それは、凡そ古典の名に値する経済学が皆そうであったように、経験科学的であり、政治経済学的であったからである。その方法やヴィジョンは今回紹介するもの(『一般理論』以前のもの。7)の1点を除いて)によく現れている。

ケインズは特に「債権者」の行動を問題にする。イギリスは17・8世紀から続く植民帝国であり、植民地に開発投資をしてきていた。また、19世紀半ばには有限責任の株式会社条例が成立していた。そのためにイギリスでは債券や株式に投資する独特の階級が成立する。(イングランドの南部に典型的に見られる上流階級)彼らはお金を持っている。けれどもうまみのある投資先を見つけることが次第に難しくなっていた。そこで彼らはお金を手元に置いておき、いつでも使える状態にしておこうとする(「流動性選好」)。こうなると、お金は商品の購買手段(古典派の貨幣観)でなくなり、価値の保蔵物(マルクスが重商主義を再評価して注目した貨幣の働き)となる。これではお金は実業界にまわって生産力を改善することにならない。ケインズはまた実業家の心理にも注意を向けた。大企業の経営者は寡占状態では保守的となり、積極的にお金を借りて競争しようという気になれない。そこで彼は金融階級と実業階級を結びつけ、貨幣が流通する仕組みを作ることで、生産の拡大・雇用の確保・所得の上昇を考えていく。

教員からの寄贈著書 (平成18年3月～平成18年8月 図書館配架分)

次の方々から著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。(50音順 敬称略)

本館

秋元 英一(法経)	世界大恐慌:一九二九年に何がおこったか	著	本館閲覧室3階 337.99/SEK
犬塚 先(文)	情報社会の構造	著	本館閲覧室3階 548.93/JOU
浦野 俊則(教育)	望岳室古文字書法論集	分担執筆	本館閲覧室4階 728.04/BOU
大江 靖雄(園芸)	競争時代における観光からの地域づくり戦略	分担執筆	本館閲覧室3階 689.4/KYO
古在 豊樹(学長)	医食農同源のサイエンス	分担執筆	本館閲覧室3階 498/ISH
小林 達明(園芸)	生物多様性緑化ハンドブック	共編	本館閲覧室3階 629.3/SEI
佐藤 博信(文)	越後中世史の世界	著	本館閲覧室2階 214.1/ECH
	戦国遺文 古河公方編	編	本館閲覧室2階 210.47/SEN
	中世東国足利・北条氏の研究	著	本館閲覧室2階 288.3/CHU
長澤 成次(教育)	現代生涯学習と社会教育の自由	著	本館閲覧室3階 379.1/GEN
松本 泰丈(文)	連語論と統語論	著	本館閲覧室4階 815.1/REN
三井 吉俊(文)	ジャン・メリエ遺言書	共訳	本館閲覧室2階 161/JAN
宮崎 清(理事/工)	韓国の薬と草の文化	監修	本館閲覧室3階 383.9/KAN

亥鼻分館

秋元 英一(法経)	世界大恐慌:一九二九年に何がおこったか	著	亥鼻2階閲覧室 337.99
市川 智彦(医)	前立腺癌スクリーニングAtoZ	著	亥鼻2階閲覧室 WJ752
亀井 克彦(真菌セ)	居住環境に基づく感染性疾患とその予防に関する研究 平成15年度研究報告	分担執筆	亥鼻3階報告書
	居住環境に基づく感染性疾患とその管理に関する研究 平成14～16年度総合研究	分担執筆	亥鼻3階報告書
	居住環境に基づく感染性疾患とその管理に関する研究 平成16年度総括・分担研究	分担執筆	亥鼻3階報告書
	新興・再興感染症研究事業 総括研究報告 平成13年度	分担執筆	亥鼻3階報告書
	輸入真菌症等真菌症の診断・治療法の開発と発生動向調査に関する研究 平成13年度	分担執筆	亥鼻3階報告書
	輸入真菌症等真菌症の診断・治療法の開発と発生動向調査に関する研究 平成14年度	分担執筆	亥鼻3階報告書
	輸入真菌症等真菌症の診断・治療法の開発と発生動向調査に関する研究 平成16年度	分担執筆	亥鼻3階報告書
	輸入真菌症等真菌症の診断・治療法の開発と発生動向調査に関する研究 平成17年度	分担執筆	亥鼻3階報告書
	深在性真菌性及び輸入真菌症対策に向けた総合的基盤研究 平成15年度	分担執筆	亥鼻3階報告書
Animal testing in infectiology / volume editors, Axel Schmidt, Olaf F. Weber	分担執筆	亥鼻2階閲覧室 QW700	
栗山 喬之(医)	肺癌診療二頁の秘訣	分担執筆	亥鼻2階閲覧室 WF658
古在 豊樹(学長)	医食農同源のサイエンス	分担執筆	亥鼻2階閲覧室 WB960
中村 伸枝(看護)	学童期から青年期にかけての食習慣の形成と食教育および慢性疾患の影響	分担執筆	亥鼻3階報告書
服部 孝道(医)	神経内科シークレット(第2版)	著	亥鼻2階閲覧室 WL100
平山 恵造(名誉教授)	神経症候学(改訂第2版,1)	著	亥鼻2階閲覧室 WY106

舟島 なをみ(看護)	看護実践・教育のための測定用具ファイル	著	亥鼻2階閲覧室 WY18
宮崎 美砂子(看護)	最新地域看護学(総論)	著	亥鼻2階閲覧室 WY106
守屋 秀繁(医)	スポーツ整形外科図説	著	亥鼻2階閲覧室 WE168
山本 修一(医)	議事録 眼・視覚学	著	亥鼻2階閲覧室 WW100

松戸分館

秋元 英一(法経)	世界大恐慌：一九二九年に何がおこったか	著	松戸閲覧室 337.99/S
大江 靖雄(園芸)	競争時代における観光からの地域づくり戦略	分担執筆	松戸閲覧室 689.4/K
木下 勇(園芸)	都市計画の理論：系譜と課題	分担執筆	松戸閲覧室 518.8/T
古在 豊樹(学長)	医食農同源のサイエンス	分担執筆	松戸閲覧室 498/I
小林 達明(園芸)	生物多様性緑化ハンドブック	共編	松戸閲覧室 629.3/S
篠原 温(園芸)	野菜のつくり方：全国の地域別カレンダー付	著	松戸閲覧室 626.9/Y
中村 攻(園芸)	「母親クラブによる親子でつくる地域の安全な環境づくり事業」調査報告書	調査企画委員会委員	松戸閲覧室 518.8/H

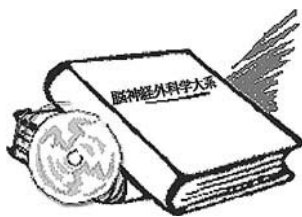
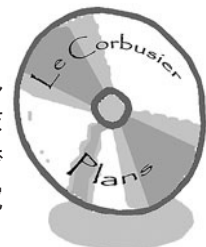
新着資料紹介

新着資料の中から毎回数点ずつご紹介します。

Le Corbusier Plans

— 本館視聴覚資料室 523.35/COR

パリ、ル・コルビュジェ財団所蔵の建築作品の設計資料、これまで公開されていなかった図面を含む約35,000点が収録されたDVDの刊行が開始されました。デジタルカメラで新たに撮影された図面は、細部まで拡大することができます。図書館では既刊分1, 2集を購入しましたので、ル・コルビュジェ研究資料として大いに活用してください。



脳神経外科学大系 (15Vols.)

— 亥鼻2F閲覧室 WL/368

脳神経外科学の全分野を網羅した大辞典的教科書です。臨床を重視したプラクティカルな内容で、手術手技のポイントとコツを音声解説と動画で編集したDVDが付属しています。

附属図書館運営委員会と事務組織の改組について

附属図書館に係る全学的な事項については、従来の附属図書館運営委員会に代え、情報化推進企画室のもとに設置された図書館専門部会と学術資料専門部会で協議することが平成18年度運営委員会で承認されました。なお、亥鼻分館・松戸分館に関する事項については、各分館運営委員会に代え、図書館専門部会のもとに設置された各分館分科会でされることとなります。

また、平成18年4月の事務組織改組により、附属図書館事務部は事務局のもとに一元化され、従来の情報管理課と情報サービス課の二課が、新設の情報部のもとで学術情報課と情報サービス課に移行しました。

行事日誌

(平成18年4月～8月)

4月21日	平成18年度関東地区国立大学図書館協会総会 (横浜国立大学)
4月26日	千葉市図書館情報ネットワーク協議会理事会(千葉市中央図書館)
5月19日	千葉市図書館情報ネットワーク協議会総会(OVTA 海外職業訓練協会)
5月26日	日本図書館協会大学図書館部会平成18年度部会総会 (日本図書館協会)
5月26日	平成17年度第4回国立大学図書館協会理事会 (東京大学)

6月29日	第53回国立大学図書館協会総会 (一橋記念講堂)
7月6日	国立国会図書館と大学図書館との連絡会 (国立国会図書館)
7月14日	平成18年度第1回附属図書館運営委員会
7月21日	国公立大学図書館協力委員会平成17年度第2回常任幹事会 (京都大学)
7月21日	第60回国公立大学図書館協力委員会 (京都大学)



千葉大学附属図書館報 InfoPort No.14

平成18年10月発行

編集・発行 千葉大学附属図書館

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33

TEL: 043-290-2262

FAX: 043-290-2266

URL: <http://www.LL.chiba-u.ac.jp/>

